

女性が活躍する 会社作り



山口 真
やまぐち・まこと
[エムズサイエンス社長]

女性が長く続けていける会社を作るためにはどうすべきか——。私は中小企業であるからこそ、大手企業とは違うやり方で会社づくりをやっているかと思っ
てほしい」と誰しもが気軽に
言える環境を作っていくことが
非常に重要だと考えています。
どうしたら、気軽に手伝って
と言える環境になるかです
が、ここには職場の風土として
「心理的安全性が確保されてい
ること」が大前提だと思ってい
ます。「これを言ってしまうと
まずいかもしれない……という
恐れが少しでもあつてはいけな

いのです。子供のお迎えや急な
体調不良、親の介護、仕事もあ
るけど、どうしよう……。「言い
にくい……」——これこそ、女性が
仕事を続けていけない最大の理
由ではないでしょうか。

当社では「ちゃんと自分の状
況をアウトプットする」という
こと。誰が何をやっているの
か、常に皆で把握し、いつでも
パトントッチできるようなして
おく。そういうことを常に意識
するようお願いしてきました。
会議の目的も全て、情報を共有
し、いつでも手助けできるよう
にするため、これを毎回全員
に周知します。そして、いざそ
ういった時には「誰か手伝え
る?」「私、やります」「ありが
とうね!」と経営者が声をかけ
る。これが大事だと思っております。
この経営者からの「ありがと
う」は、交代を引き受けた社員
にとつても、それを見ている周
囲の社員にとつても、非常に大
事なことです。誰かをサポート
することは、会社に貢献したと
認めてもらえることなのだと思

員が認識します。そうすること
で、急遽仕事ができなくなつた
人が責任を感じてしまつたり、
手伝つた人が損をした気持ちに
なつてしまつたり、といったマ
イナスな空気を生み出すことが
なくなりません。「やつてよかつ
た」「いてくれてよかつた」とい
うプラスの空気が漂うのです。

私は、理科の教師を務めた
後、通販メーカーやOEM工場
の営業を経験し、35歳で起業し
ました。どこの会社でも、どん
な仕事にも、精一杯自分のでき
る限りを尽くしてきました。ど
の仕事もとても好きで、やりが
いもありました。でも、冷やや
かな人間関係や相談しにくい空
気があると、「楽しくない」「こ
こにずっとはいたくない」と思
つたことも数しれません。

ストレスなく働いたらどんな
に楽しいだろうと何度思ったこ
とか……。ここにずっといた
いと思える職場を作るにはど
うしたらいいのかを自分なりに
分析し、会社の空気、つまりは
組織風土の在り方がストレスを

生むのだと気づいたので。

では、誰が組織風土を作るの
か? 経営者です。経営者さ
え、風土作りに動けばいいので
す。皆、それを正しい行動だと
みて、経営者を見本として組織
風土が形成されていきます。

ゼロから会社を興し、組織風
土も作ってきました。誰しもが
気軽に「手伝って」と言える環
境が今では当たり前になりました。
いつでも手伝えるように、
他の人の動きも皆見えています。

そして、何かトラブルが起こ
つても誰かの責任にすることは
ありません。「私も見ていたの
に、気づかなくてごめんね!」
「次は一緒に改善しよう!」と
言える気持ちの良い職場とな
り、女性社員がイキイキと働く
会社となりました。

今後もし人手不足が一層課題に
なってくる日本にとつて、女性
の活躍は欠かすことはできませ
ん。女性が安心して長く勤めて
いける組織風土作りこそ、これ
からの経営トップに求められて
いるのではないのでしょうか。